

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年 5月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201119		
法人名	合資会社 けやきの家		
事業所名	グループホーム けやきの家		
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和1355-8 (電話) 078-975-7614		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年4月21日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(平成21年 4月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人,	常勤換算 5.45人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 165,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(4月 6日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護 1	0	要介護 2	3
要介護 3	0	要介護 4	1
要介護 5	2	要支援 2	0
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かなさと内科医院
---------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季の移り変わりを感じる静かな環境の住宅街の中で、定員6名のグループホームが地域の役割を果たしながら、歴史を刻んでいる。重度化する利用者の全面的な介助が必要な方への悪化防止の支援により、改善方向に向かい、個別の介護計画を軸に専門性を活かしたサービスが丁寧に行われている。利用者と共に食事づくり等を行い、生活力を引き出し自信につながる支援に職員全体が情熱を持って新しい理念の実践に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回の外部評価で改善課題となった項目において、職員間で話し合わせ、職員体制や食を通じての支援の見直し、理念のあり方等、熱意をもって改善に取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	第三者評価の意義について職員全員が理解を深め、自己評価に取り組まれており、日常のケアの振り返りと向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	それぞれの立場のメンバーで安定した運営推進会議が行われ、日常の状況や第三者評価の結果等の報告についての意見や要望を頂き、日々のサービスに活かすように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	定期的な家族会を開いたり、家族の面会時に意見を聞く機会と捉え、意見が言い易い雰囲気づくりに取り組んでいる。また面会に来られない家族の意見や、更に改善に繋がる意向を吸い上げる具体的な取組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	自治会の会合に出席したり、夏祭り、連合会で行なうクリーン作戦や、草引き等の活動に職員、利用者が参加し、散歩などで日頃から挨拶を交わして、地域の人々と積極的な交流に取り組まれている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で支えあいながら共に築き上げる、事業所がもっとも大切に、めざす方針が分かりやすく盛り込まれた新しい理念を独自で作りに上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	まだ理念が作られたばかりで職員全員には浸透していないが、日々のサービスの中で実践に向けて話し合われている。		理念をもとに支援の目的や方向性を明確にし、職員全体の目線の幅を拡げる動機付けや日々の記録の書式変更等、熱意を持って取り組まれているので期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入され、管理者自身が自治会長の役員を務め、連合会活動やクリーン活動等の地域活動に利用者共々に参加され、夏祭りなどの行事に参加するなど地元の人々との積極的な交流に取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員が第三者評価の意義について理解され、自己評価を全員で取り組まれており、1年間の取組みの振り返りの機会として、また気づきを基に具体的な改善に活かして行く姿勢をもたれている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、利用者、家族代表、地域包括支援センター職員、地域役員等の出席により事業所の報告を基に意見を頂き、サービスや地域への広がりへと取り組まれている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市主催の連絡会に参加し、指導や事例の対応などの情報を取り入れ、日々の実践に取り入れている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>介護計画書と日々の暮らしぶりなどの報告書を各月に送付している。金銭管理は毎月請求書にレシートをつけて報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に一度の家族会を開き、要望や意見を述べてもらえる雰囲気作りの機会を設けている。個々の意見や不満等については面会時に聞く姿勢を持ち、反映させるように取り組まれている。</p>		<p>面会に来られる家族や、来られない家族等の公平さを考慮しながら、質向上の為に意見や家族の本音が言える、アンケート等の具体的な方法を話し合い、取り組みに期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が働きやすいシフトの変更等、勤務体制を見直し、離職を必要最小限に抑えるように努力し、引継ぎ期間も含めて早めに退職届けを申し出てもらい、利用者の馴染みの関係の継続を心がけている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人の研修計画を作成し、月1回の職員会議で必要な勉強会を行っている。外部研修の情報を提供し、人材育成に努めている。</p>		<p>年間の研修計画を作成したり、外部研修報告書に基づいて伝達研修を行うなど、職員全体で向上できる機会の仕組みに取り組んで欲しい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期の地域密着型サービス事業所連絡会に出席し、お互いに事業所の情報交換を行い、同規模の事業所等の相互訪問による活動を通じて交流を深めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始には十分サービス内容について説明を行い、見学等による事業所の雰囲気を見ていただき、馴染めない利用者には家族と相談し、一緒に宿泊して頂いたりなど工夫をしながら、安心できるように個別での対応が行われている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念にも掲げてあり、学ばせて頂く姿勢を職員に伝えるようにしているが、現状介護度の高い方が多く、身体的な介助が増えているため、以前は支えあう関係が築けていたが、介護する関係になる危険性を感じている。</p>		<p>アセスメント力を活かし、できる、できない視点ではなく、年配者としての尊敬の気持ちで謙虚に学ぶ関係作りの工夫を職員全員で話し合い取組んで欲しい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で、どのように過ごしたいか、何をしたいかを、日常の会話の中で把握するよう努め、家族や関係者からの情報等を得るようにしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状況を重視した個人の記録を工夫した書式変更等、介護計画に反映する仕組みづくりに取り組まれ、職員のアイデアや家族の意見を反映した介護計画作成に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>2ヶ月ごとの定期の介護計画の見直しを行い、状況に応じては随時の見直しが行われ、家族や関係者と相談しながら、新しい介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の受診支援を行ったり、24時間の医療協力体制や、個々の家族の意向や状況に応じて柔軟な支援が行われている。また閉じこもりがちな地域の高齢者への受け入れの体制等、多機能性を活かした取り組みがなされている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>日頃から掛かりつけ医との連携を図り、継続した関係を築いている。2週間に一度の協力医の往診や24時間緊急医療体制など重度化に伴う医療連携が整っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>サービス開始時には、重度化した場合の事業所の方針を説明し、家族の同意書を頂き、どうすれば終末期まで受け入れられるかをかかりつけ医や家族、職員間で話し合い、相談しながら個別の対応に努めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の尊厳を守る為に、排泄介助や着脱などはプライドを傷つけないように配慮している。個人情報の取り扱いについても、秘密保持の誓約書を提出したり等、職員に理解を得ている。</p>		<p>ミーティングや研修などでプライバシーの確保について話し合い、継続した職員全体の意識向上を図り、外来者に対してや利用者への言葉かけや内容について、日常的に確認し合う取り組みに期待したい。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活ペースを継続しながら、食事の時間や入浴、外出等、その人の希望や状態に合わせた支援が行なわれている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、買物、調理、配膳、片付け、食器洗い等を一緒に行い、重度化する中で、精一杯、一人ひとりの能力を活かせる様に取り組まれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日を決めて、少なくとも週に2回は入浴できるように支援している。必要に応じて、または希望に応じて柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝いや散歩、歌を歌ったり、歌詞を書いてもらうなど、一人ひとりの得意なことや力を活かした支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は気候や体調を見ながら行われている。四季の花見にお弁当を持って出かけたり、買い物や美容院、通院等、個別で出かける時に希望に応じて、喫茶店でコーヒーを飲んだり、図書館に寄るなど日常の外出が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の開閉時にやわらかなメロデーが流れ、職員の見守りや地域の人々の連携等の協力を得て、日中玄関の鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難経路を職員に分かりやすいところに掲示し、毎年避難方法についてミーティングで話し合い、確認している。災害時の地域住民への協力を運営推進会議や自治会の会議等で呼びかけている。</p>		<p>消防署の協力を得て、定期的に利用者、地域の人々の参加を得ながら、具体的な場合を想定しながら訓練を行う等、災害に対する取り組みが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスやカロリー計算された献立を基本として、食事提供をされている。食事摂取量のチェックを記録に残し、栄養確保に努めている。必要な利用者には水分量のチェックを行い、1日の必要量の飲水支援が行われている。</p>		<p>職員全体が栄養の偏りやカロリー不足の弊害、水分量の確保の重要性について認識を深め、一人ひとりの1日の水分量を把握し、飲水量がどの位とれているのか常に意識しながら、関わりを持つように取り組んでほしい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間、台所、トイレ等、清潔に手入れされており、四季の花や飾りなどの工夫がなされ、ウッドデッキからの池を囲む景色をみながらティータイムを楽しみ、季節感を感じる取り組みがなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は使い慣れた物が持ち込まれ、利用者の個性や生活スタイルに合わせて、その人らしい居心地の良い居室づくりが行われている。</p>		

 は、重点項目。